

#### 第44回日本剣道少年団研修会<体験実践発表>講評

審査委員長 平井克彦

今回も昨年と同様、新型コロナウイルス感染防止という点から発表会を行わないで作文の内容だけで審査を行うこととなりました。

これまでの審査では予め作文を読んで、仮の点数を付けておいて、表現力、姿勢を総合的に評価して順位を決めてきました。壇上で見せる堂々とした態度、聴衆を納得させる話し方、手話などを交えての話、話すときの間の取り方、壇上で見せるパフォーマンス、そうしたものを総合して合計点を付けてきました。事前に作文を採点したときの順位が大きく変わることはしばしばでした。今年は素晴らしい表現力や姿勢が見られると期待し、楽しみにしていました。しかし、今年も昨年同様に作文だけの審査になってしまいました。非常に残念です。

小学生の作文についてみますと、お父さん、お母さん、指導者の方の言動が小学生の行動や考え方に大きな影響を与えていることがわかります。多くの作文が剣道ができることへの感謝の気持ちを綴っています。また、複数の作文が剣道を継続していくことへの決意を述べています。中学生の作文についてみますと、コロナに言及してはいるものの昨年と違って、コロナに負けずに前に進もうとしています。全員が扱っているテーマが異なっていました。小学生、中学生、どの作文も〔体験・実践〕の発表という趣旨に沿って体験したこと、実践していることについて書いています。この点は良かったと思います。

作文の評価は他の人が経験していないユニークな〔体験・実践〕のものが高くなりました。他の人と同じような〔体験・実践〕では、評価が高くなりにくい場合もあります。この年齢でこんな素晴らしい〔体験・実践〕をしているのか、と読む人に感動させられる作文が高い評価になりました。

作文だけの審査ですから、時間をかけて、何度も何度も読み直して、点数を修正したり、確認したりして、順位を決めさせていただきました。